

2019年度 自己評価書

学校名	和歌山市立四箇郷小学校
校長氏名	上田 仁
作成日	令和2年度2月12日

1 教育目標

社会を生き抜く力を備えた子供を育てる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	安全の確保
指標	学校評価アンケート項目「学校は、学校の教育活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」⇒『思う方』の回答85%以上	図書室への総来室者数⇒前年度を維持	2019年実施の全国学力・学習状況調査の結果⇒全国平均に近付ける	学校評価アンケート項目「学校は、子どもの安全確保・健康管理のための取り組みを十分行っている」⇒『思う方』の回答85%以上を維持
重点目標【P】	・学校だより・ホームページの発行・更新を通して、学校の情報を発信していく。 ・地域の人たちとの交流を計画的・積極的に進める。	・図書館教育の推進を継続する。 ・道徳教育を計画的に進める。 ・豊かな体験活動の充実を図る。	・長期的な視点と短期的な取り組みを整理し戦略的に進めていく。	・児童の安全確保のために、計画的かつ能動的な体制を構築する。
取組の状況【D】	・発行・更新は、月に複数回行った。 ・地域の人たちとの交流は、計画的には進められたが、積極的な観点からは課題は残る。	・保護者の方のボランティア活動は、維持・継続できている。 ・教科としての道徳は、年間計画通りに進められた。 ・学校が保護者や児童と地域との間に立って、おおむね進められた。	・学力向上を観点にした研究授業を、さらに進める必要がある。 ・きのくに学力定着フォローアップアドバイザーによる、中学年における学力向上を観点にした授業改善（指導）は、計画通りに実施済み。	・学校独自のマニュアルを作成し、実際の事案に対処することで、さらに実情に応じたものに改善することができた。 ・ホームページやメールで、早く正確に情報を伝えることに努めた。
取組の成果と課題（評価結果）【C】	▲学校評価アンケート項目「1. 学校は、学校の教育活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」⇒『思う方』の回答結果…74.5% ▲地域の人的資源をさらに活用できるよう、教頭とともに具体的に進める必要がある。	○図書室への総来室者数⇒前年度とほぼ同数。 ▲教科指導の時間の確保を考えると、児童が休みの日に体験活動ができる場を設定する必要がある。よって、学校と地域、保護者ができることを整理し、計画的に進めていく必要がある。	・全国平均に近付ける⇒▲国語科，○算数科 ・研究授業の実施回数⇒○計画通りに実施済み ・研究授業の協議内容⇒▲学力向上を観点にした話し合いをさらに深める必要あり	○学校評価アンケート項目「3. 学校は、子どもの安全確保・健康管理のための取り組みを十分行っている」⇒『思う方』の回答結果…86.4%
改善方法【A】 次年度に向けての	□保護者が必要としている情報とともに、校長の方針や考えを今後も発信していかなければならない。『思う方』の回答結果…80%以上を目標に □教頭とともに、地域の各種団体へ具体的に依頼していく。	□図書ボランティアの運営に関し、校長自ら積極的にかわっていく。 □体験活動の目的を明確にし、年間計画に入れていく。また、常時活動（掃除やあいさつ運動）は維持・継続できるようにしていく。	□漢字学習の在り方・方法については、出題傾向を分析した上で、学年を通した具体的な方向性・取り組みが必要である。 □指導案に、学力向上を観点にした授業者の思いや願い，考えをより明確に表現する必要がある。 □補充的な学習の在り方・方法について、学年を通した具体的な方向性を決めなければならない。	□学校評価アンケート項目「3. 学校は、子どもの安全確保・健康管理のための取り組みを十分行っている」⇒『思う方』の回答結果…85%以上を維持する。

3 その他の課題

・若い教職員，経験の短い教職員への校内での指導・支援体制を，今一度組織立てて構築し直す必要がある。
